

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名： 公益財団法人大垣国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域日本語力はぐみ事業
事業の目的	言葉や生活習慣、文化の違いなどから日本人と外国人の間で生じるトラブルや、言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設け、地域の人と積極的にコミュニケーションが取れる下地をはぐむ。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人に寄り添い、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させることに加えて、日本語教育の取組の成果を広く地域住民に発信することで、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	・大垣市を中心とした地域には外国人労働者を雇用する工場等が多く、大垣市に在住する外国人は平成25年以降増加傾向にあり、割合は約3.2%（平成30年12月末）と全国平均より高い。近年は、日系ブラジル人を中心に日本に定住することを希望する人の増加や国際結婚の増加、技能実習生の増加などにより、日本社会の一員として暮らす外国人が増えるとともに背景も多様化している。大垣市内にある大学や日本語学校では留学生に対する日本語教育が行われているが、それを除くと大人を対象とした日本語を学ぶ場は当協会の日本語学習支援のみである。 ・平成28年度に大垣市が実施した外国人市民の現況や課題を調査するアンケートによると、日常生活の悩みや困っていることとして、「言葉が通じない」、「必要な情報が得られない」という回答が上位に挙がった。平成30年度までの3年間、「地域日本語教育実践プログラム(A)」を受託し、「言葉が通じない」外国人が最低限の日本語能力を習得するための基礎コースと、生活面で「必要な情報が得られない」外国人が日本語を学習しつつ日本の生活情報を習得するコースを開催し、それぞれのニーズに対応してきたが、前に述べたように日本語学習の場が少ないことから、定員を大幅に超える学習希望者があり、学習の場が足りていない。 ・日本人市民に目を向けると、同アンケートで外国人市民が増えることについて感じることで、地域経済の発展につながると思うなどプラスの面を感じている一方、治安の悪化の可能性がある、ごみ捨てなどの生活ルールが乱れると感じている市民が70%以上いた。また、言葉が通じずコミュニケーションがとれないと感じているなど多文化共生の理解が不足している。そのため、地域住民に外国人市民の現況や日本語教育の取組などを発信していく必要があると感じている。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	上記の目的、課題解決のために、次の3つの取組を実施した。 【取組1】日本語教室「基礎クラス」、「会話クラス」 ・日本語、地域生活の情報・ルール習得のために、対象者及び目的の異なる2つのコースを実施した。 ①来日間もないなどほとんど日本語が話せない外国人が最低限の日本語能力を身に付け、安心して暮らせることを目的とした「基礎クラス」 ②日常生活場面（買い物、ごみ出し、医療機関の受診など）の日本語とそこで役立つ情報の習得ができる「会話クラス」 ・ゼロ初級レベルの学習者を含め、あらゆる日本語レベルの外国人が生活に必要な情報を得るための日本語コミュニケーション能力をはぐくめる学習機会を提供した。 【取組2】日本語指導ボランティア講座「入門編」、「ブラッシュアップ編」 ・外国人のところに寄り添うサポートを同じ地域の住民自身の手で行い、継続的かつ自律的に日本語教育が実施できるように、新たな市民のサポーターを養成した。サポート人材の輪を広げるサポーター養成講座と既にサポートをしている人がステップアップできる講座の2種類を実施した。 【取組3】地域日本語教育シンポジウムin大垣 ・地域の人々に多文化共生の地域づくりに向けた理解を促進した。課題にあるように外国人が増えることに対するマイナスのイメージを持つ人が一定数いるため、取組の成果発表としての外国人市民の日本語スピーチ発表に加えて、地域日本語教育をテーマのパネルディスカッションなどを実施し、理解を深めるきっかけになるよう情報発信をした。
事業の実施期間	令和元年5月～令和2年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 かなな	岐阜協立大学 非常勤講師
2	市橋 剛	岐阜県多文化共生推進員
3	大塚 親子	大垣市立中川小学校 教諭
4	岡本 幸	CAPCO(大垣外国人コミュニティーサポートセンター)代表
5	柏谷 涼介	セントラルジャパン日本語学校 主任教員
6	桐山 知弘	大垣市まちづくり推進課(多文化共生係) 主幹
7	小寺 里香	岐阜大学、岐阜協立大学 非常勤講師
8	所 渉子	大垣市多文化共生サポーター事業 コーディネーター
9	社本 久夫	公益財団法人大垣国際交流協会 事務局長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年7月31日 (水) 13:30～15:30	2時間	大垣市サイトピアセ ンター かがやき活 動室6-3	伊藤 かな、市橋 剛 大塚 親子、岡本 幸 柏谷 涼介、桐山 知弘 小寺 里香、所 渉子 社本 久夫、吉安 三恵	①令和元年度「外国人市民のための日本語教育事業」について ・各取組の概要及び実施状況を説明した。 ・効果的な取組とするため各取組の活動内容について意見交換をし、改善 点を検討した。 ②事業成果の検証方法の検討 ・事業の成果検証方法をアンケートとし、アンケート案が目標・目的を効果 的に評価できるものか検討し、質問項目について話し合った。
2	令和2年3月7日(土) 13:30～15:30	2時間	大垣市サイトピアセ ンター 自治会室	伊藤 かな、市橋 剛 大塚 親子、柏谷 涼介 桐山 知弘、所 渉子 社本 久夫、吉安 三恵	①令和元年度の事業評価について ・全取組のアンケート結果や実施状況を通して、目的・目標への達成度と今 後の改善点を協議した。 ②令和2年度の事業について ・令和元年度の取組を踏まえて、次年度への改善点などを含めた事業計画 の具体的な内容の説明と改善点の反映について検討した。

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	・行政、留学生への日本語教育を実施する地域の大学・日本語学校、外国人支援団体、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員ら、日頃から外国人に関わる取組を行っている当事者が運営委員会のメンバーに入り、それぞれの立場から多角的かつ効果的な検討・検証ができた。 ・各機関とのネットワーク形成、各取組みの人材や情報の活用において連携・協力することができた。 ・在住外国人の団体と共に取り組む中で、日本人目線だけでなく当事者である外国人の目線も反映させることができ、地域の課題解決につなげることができた。 ・本事業で当協会が核になって各関係機関・団体間のつながり作りができ、互いの現場で抱える課題を共有したりする中で、今後地域全体として多文化のまちづくりを実現する能力を向上させることができた。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	・当地域の「生活者としての外国人」に関連する主な機関・団体のメンバーが運営委員会に入り、そのうち2人が事業の中核メンバーとして事業を推進していく体制で実施した。日本語教育の専門機関であり、且つ大垣市行政とも複数の事業で既に連携・協力体制にある岐阜協立大学に所属する人がコーディネーターとなり、行政・日本語教育機関・当協会の間で連携ができた。 ・各機関・団体の役割としては、当協会はこれまでに培ってきた外国人支援の実績から外国人への学習機会の周知やボランティアの募集を中核的に行い、長年地域の日本語教育に携わり、且つ過去3年間の本事業のコーディネーター経験者がコーディネーターとして地域の外国人の実情に即した教育プログラムを当協会の事業担当者と共に作成し、日本語教育機関が日本語学習の指導技術を提供し、それぞれの専門性を活かした実施体制を作り、参加者に受け入れられやすい事業を行うことができた。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞		
取組の名称	外国人市民のための日本語教室「①基礎クラス」、「②会話クラス」	
取組の目標	・地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日常生活の日本語習得と共に、医療や防災、ごみ出しなどの生活場面での情報も得て、自立した生活ができ、地域の住民とコミュニケーションを取り地域に溶け込んで生活できるように促す。	
取組の内容	・多様な背景を持つ外国人に対応し、当地域の外国人の学習希望日時で一番ニーズのある日曜日の午前に2種類のクラスを実施した。 ■①基礎クラス(2時間×12回×3期=72時間、全36回) 5月12日(日)～2月2日(日) [対象] 来日後間もないなど日本語がゼロ初級レベルの人(1期20人) [カリキュラムなど] ・地域住民との関係作りのきっかけとなり、地域で受け入れてもらうために「自分のことを伝える」をテーマとした。 ・自分自身のこと、家族のこと、母国のことなどを表現できる日本語の語彙・表現、日本の生活習慣、文化を学び、活動形態は「話す」、「聞く」を中心に行った。 ・文字学習は、ひらがなを一通り学習し、自分の名前はひらがな、カタカナ、漢字(日本人配偶者など)を使って書けるようにした。また、日常よく見ることばの読み書きも学習した。 ・復習回では、前3回分の復習とその発展学習をした。例えば、曜日の復習から、ごみ出しの曜日の確認、ごみ回収の情報や近所の人に聞く練習を行った。 ・最終回に、今まで習ったことを使って受講者が簡単なスピーチをし、修了証を渡した。 ■②会話クラス(2時間×8回=16時間) 8月4日(日)～10月6日(日) [対象] 基礎クラス修了レベルの人 [カリキュラムなど] ・日常生活で直面する場面の語彙、会話、生活情報などを学習した。 ・1テーマ、1回完結型で開催(災害のみ2回完結型)。 ・平成29年度プログラム(A)で作成した学習教材から「子育て・学校」、「病院」、「災害」、「買い物」、「ごみ出し」、「電話」、「道を尋ねる」の7テーマをピックアップし、学習した。座学に加えて、ごみの分別や電話機を使って電話の練習をするなど、体験を通して楽しく日本語を学べるよう工夫した。 ・「ごみ出し」は、大垣市の担当職員を招き、ごみ出しルールの説明や分別の指導をした。同様に、「災害」は大垣市防災担当職員を招き、避難所の確認や災害に関する大切な情報の提供を行った。市役所職員らに、外国人に接してもらう中で外国人目線を持つ意識を持ってもらい、地域全体が外国人と共に暮らすまちづくりになるよう、関係機関とも連携して実施した。 ＜両クラス共通＞ ●アシスタント ・ボランティア(2～5人程度)がアシスタントとして毎回授業に参加し、会話練習やグループワークの主導など指導者のサポートをした。 ●行動目標 ・回ごとに「何が出来るようになるかを示す行動目標(can-do statements)」を設け、そのために必要な文型や語彙を学ぶカリキュラムを組み立てた。 ●託児 ・子育て世代にとっては、医療・教育・安全に関することなど生活の中で日本語を必要とする機会が多いが、その反面子どもがいることにより、日本語学習の機会を逸することがある。そのような人々の学習環境を整えるため、日本語教室の実施に併せて託児室を開設した。 ・託児室を利用する子どもが日本語に触れることができるよう、月齢に応じた絵本やCD、DVDなどを通して日本語を聞いたり、読んだりするできる託児室にした。 ・教室の前後15分を合わせ、1回の授業に対し2.5時間の託児を実施した。(実績:基礎1期:1人、2期:1人、3期:1人、会話:2人) ＜基礎クラスのみ＞ ●コーディネーター ・事業全体のコーディネーターとは別途、日本語教室(基礎クラス)をコーディネートするコーディネーターを設置した。役割:プログラムの編成、カリキュラム・教材の作成、複数の指導者がローテーションで指導するための指導者調整、学習の習得率が低い学習者への対応、学習者のレベルに応じた授業内容の適宜見直しなど ●事業の再委託 ・基礎クラスの実施においては、コーディネート業務及び指導を地域の日本語学校に再委託した。 再委託にあたって指導者の要件を次のとおり設けた。 ・大学(短期大学を除く。以下において同じ。)又は大学院において日本語教育に関する教育課程を履修して所定の単位を修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者 ・大学又は大学院において日本語教育に関する科目の単位を26単位以上修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者 ・公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する日本語教育能力検定試験に合格した者 ・学資の学位を有し、かつ、日本語教育に関する研修であって適当と認められるものを420単位時間以上受講し、これを修了した者 ・その他これらの者と同等以上の能力があると認められる者	
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	
取組による体制整備	・日本語学校、大学から日本語教師を指導者として迎えることで、日本語教育の専門機関と協働した取組、そして持続可能な取り組みを行うことができた。 ・行政職員から災害などの情報提供を行う機会を設け、行政との更なる連携を取り、防災などについても協力し合える連携の体制整備をした。	
取組による日本語能力の向上	・ゼロ初級レベルの人が、最低限安心して生活できる日本語の習得 ・日常の生活に役立つ日本語と生活ルールなどの習得	

参加対象者		・日本語を学習したい外国人市民				参加者数 (内 外国人数)		総数 113人(86人) ・日本語学習者 86人(基礎1期: 18人、2期:20人、3期:23人、会 話:25人) ・指導者:11人 ・支援者(アシスタント) 16人		
広報及び募集方法		・当協会ウェブサイト ・Facebook発信(やさしい日本語、ポルトガル語、英語) ・募集チラシ配布(やさしい日本語、ポルトガル語、中国語、英語)								
開催時間数		総時間 88時間(空白地域 0時間)				内訳 2時間 × 44回 ■基礎クラス 72時間(2時間×36回(12回×3期)) ■会話クラス 16時間(2時間×8回)				
主な連携・協働先		・地域の日本語学校 ・大垣市内の大学 ・大垣市役所								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人) 【基礎クラス】	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	12人(1期:6 人、2期:6人)		17人(1期:3 人、2期:8人、3 期:6人)	25人(1期:4 人、2期:5人、3 期:16人)			2人(1期:2人)	1人(3期:1人)	1人(2期:1人)	
	マレーシア(3人(1期:3人))									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人) 【会話クラス】	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	2人		3人	16人					2人	
	マレーシア(2人)									
【基礎クラス】 実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	〈1期〉 令和元年5月12日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	18	自己紹介	ネームプレート作成、初めて会った人に 自分の基本情報、日本にきた理由を伝 えるための、名前、出身国、住所、日本 にきた理由を伝える語彙、表現の学習		川部 淳子	〈補助者〉伊藤 祥、岡田 千栄子、 松田 東司、ダン ティ ホアイ 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ 子	
2	令和元年5月19日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	17	会社・学校・職業な ど、職業、立場を伝 える	初めて会った人に自分の職業、立場な どを伝えるため「今何をしていますか」 や「仕事はどうですか」の問いに答えら れる学習		川部 淳子	〈補助者〉伊藤 祥、高田 ゆう子、 ダン ティ ホアイ、福田 明弥、松 田 東司 〈保育〉川崎 清美、山田 あつみ	
3	令和元年5月26日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	14	休日・趣味につい て伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友 人関係のきっかけを作るため「休みは何 曜日ですか」や「休みの日は何をしてい ますか」の問いに答えられる学習		高木 みき	〈補助者〉大橋 節子、松田 東司 〈保育〉日比 美登利、山田 あつ み	
4	令和元年6月2日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	12	1～3回(1期1～3 回)の復習とごみ 出しについて学ぶ	1～3回の内容を復習し定着を図るととも に、習った構文を続けて話す学習。曜日 の振り返りから発展させ、ごみ出しにつ いて語彙やごみの種類の名前、わから ないことを聞く会話練習		高木 みき	〈補助者〉安藤 誠、市橋 剛、岡田 千栄子、ダン ティ ホアイ、松田 東司 〈保育〉川崎 清美、三輪 みよ子	
5	令和元年6月9日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ターかがや き活動室6- 2	8	家族の構成、簡単 な紹介をする	家族の呼び方、「家族は〇人です」、「子 どもは〇歳です」、「子どもは小学校に 行っています」など、家族の基本的な情 報を伝える語彙、表現の学習		金子 由真	〈補助者〉伊藤 祥、福田 明弥	
6	令和元年6月16日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	7	家族の性格を伝え る	「性格のことば」「好きなこと」「嫌いなこ と」「上手なこと」など、人の内面的な情 報を伝える語彙、表現の学習		高木 みき	〈補助者〉今井 啓、岡田 千栄子、 松田 東司	
7	令和元年6月23日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ターかがや き活動室6- 3	7	記念日、思い出な どを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える日 時・日付の表現や、「〈記念日〉に〈人〉に 〇〇をもらいました」「あげました」など 授受表現の学習		大澤 彩	〈補助者〉安藤 誠、伊藤 祥、松田 東司	
8	令和元年6月30日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	7	5～7回(1期の5～7 回)の復習と病気 について学ぶ	5～7回の内容を復習(家族の職業や性 格など、家族を紹介する表現)。病気に 関する体の部位や症状のことば、問診 票、医者 の診察を受ける際のことば		高木 みき	〈補助者〉今井 啓、福田 明弥、松 田 東司	
9	令和元年7月7日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	6	母国について伝え る①	位置、方角、人口など、自分の国の情 報を説明する語彙、表現の学習 書く練習として日記を書いた		高木 みき	〈補助者〉安藤 誠、今井 啓、松田 東司	
10	令和元年7月14日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	5	母国について伝え る②	自分の国の特徴について簡単に伝える ことができるよう「どんな国か」や「何が 有名か」の問いに答えられる学習		佐藤 幹樹子	〈補助者〉伊藤 祥、林 光子、松田 東司	
11	令和元年7月21日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	5	母国について伝え る③	自分の国の食文化について簡単に伝え ることができるよう「どんな料理が有名 か」や「何をよく食べるか」という問いに 答えられる学習		川部 淳子	〈補助者〉伊藤 祥、今井 啓、岡田 千栄子、松田 東司	

12	令和元年7月28日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	5	9～11回(1期の9～ 11回)の復習と全 体のまとめ	今まで習ったことを用いて自分のことを 言う練習、スーパーで物のある場所を 尋ねる練習、自国料理の説明や食事の マナーについて学習	岩井 実里	〈補助者〉林 光子、松田 東司
13	〈2期〉 令和元年8月11日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	16	自己紹介	ネームプレート作成、初めて会った人に 自分の基本情報、日本にきた理由を伝 えるための、名前、出身国、住所、日本 にきた理由を伝える語彙、表現の学習	川部 淳子	〈補助者〉伊藤 祥、今井啓、松田 東司 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ 子
14	令和元年8月18日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	14	会社・学校・職業な ど、職業、立場を伝 える	初めて会った人に自分の職業、立場な どを伝えるため「今何をしていますか」 や「仕事はどうですか」の問いに答えら れる学習	川部 淳子	〈補助者〉伊藤 祥、今井 啓、岡田 千栄子 〈保育〉川崎 清美、山田 あつみ
15	令和元年8月25日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	12	休日・趣味につい て伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友 人関係のきっかけを作るため「休みは何 曜日ですか」や「休みの日は何をしてい ますか」の問いに答えられる学習	岩井 実里	〈補助者〉今井 啓、岡田 千栄子、 松田 東司 〈保育〉日比 美登利、山田 あつ み
16	令和元年9月1日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	9	13～15回(2期1～3 回)の復習とごみ 出しについて学ぶ	1～3回の内容を復習し定着を図るととも に、習った構文を続けて話す学習。曜日の 振り返りから発展させ、ごみ出しにつ いて語彙やごみの種類の名前、わから ないことを聞く会話練習	高木 みき	〈補助者〉今井 啓、岡田 千栄子、 林 光子 〈保育〉川崎 清美、三輪 みよ子
17	令和元年9月8日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	15	家族の構成、簡単 な紹介をする	家族の呼び方、「家族は〇人です」、「子 どもは〇歳です」、「子どもは小学校に 行っています」など、家族の基本的な情 報を伝える語彙、表現の学習	大澤 彩	〈補助者〉安藤 誠、今井 啓、松田 東司 〈保育〉三輪みよ子、山田 あつみ
18	令和元年9月15日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 2	10	家族の性格を伝え る	「性格のことは」「好きなこと」「嫌いなこ と」「上手なこと」など、人の内面的な情 報を伝える語彙、表現の学習	大澤 彩	〈補助者〉伊藤 祥、今井 啓、林 光子
19	令和元年9月22日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	9	記念日、思い出な どを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える日 時・日付の表現や、「〈記念日〉に〈人〉に 〇〇をもらいました」「あげました」など 授受表現の学習	高木 みき	〈補助者〉今井 啓、大橋 節子、岡 田 千栄子
20	令和元年9月29日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 2	9	17～19回(2期の5 ～7回)の復習と病 気について学ぶ	5～7回の内容を復習(家族の職業や性 格など、家族を紹介する表現)。病気に 関する体の部位や症状のことは、問診 票、医者診察を受ける際のことは	高木 みき	〈補助者〉今井 啓、大橋 節子、松 田 東司
21	令和元年10月6日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	9	母国について伝え る①	位置、方角、人口など、自分の国の情 報を説明する語彙、表現の学習	大澤 彩	〈補助者〉伊藤 祥、今井 啓、岡田 千栄子、久世 淳三
22	令和元年10月13日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	7	母国について伝え る②	自分の国の特徴について簡単に伝える ことができるよう「どんな国か」や「何が 有名な」の問いに答えられる学習	高木 みき	〈補助者〉伊藤 祥、今井 啓、根本 たい子、松田 東司
23	令和元年10月20日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	7	母国について伝え る③	自分の国の食文化について簡単に伝え るための、名前、出身国、住所、日本 にきた理由を伝える語彙、表現の学習	佐藤 幹樹子	〈補助者〉今井 啓、高田 ゆう子、 根本 たい子、松田 東司
24	令和元年10月27日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	8	21～23回(2期の9 ～11回)の復習と 全体のまとめ	今まで習ったことを用いて自分のことを 言う練習、スーパーで物のある場所を 尋ねる練習、自国料理の説明や食事の マナーについて学習	高木 みき	〈補助者〉伊藤 祥、今井 啓、久世 淳三、松田 東司
25	〈3期〉 令和元年11月10日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	11	自己紹介	ネームプレート作成、初めて会った人に 自分の基本情報、日本にきた理由を伝 えるための、名前、出身国、住所、日本 にきた理由を伝える語彙、表現の学習	川部 淳子	〈補助者〉伊藤 祥、岡田 千栄子、 高田 ゆう子、根本 たい子、松田 東司 〈保育〉三輪 みよ子、山田 あつみ
26	令和元年11月17日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター学習室4	19	会社・学校・職業な ど、職業、立場を伝 える	初めて会った人に自分の職業、立場な どを伝えるため「今何をしていますか」 や「仕事はどうですか」の問いに答えら れる学習	高木 みき	〈補助者〉伊藤 祥、今井 啓、岡田 千栄子、松田東司 〈保育〉川崎 清美、日比 美登利
27	令和元年11月24日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	17	休日・趣味につい て伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友 人関係のきっかけを作るため「休みは何 曜日ですか」や「休みの日は何をしてい ますか」の問いに答えられる学習	山田 有香	〈補助者〉久世 淳三、根本 たい 子、林 光子、松田 東司 〈保育〉日比 美登利、山田 あつ み
28	令和元年12月1日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	15	25～27回(3期1～3 回)の復習とごみ 出しについて学ぶ	1～3回の内容を復習し定着を図るととも に、習った構文を続けて話す学習。曜日の 振り返りから発展させ、ごみ出しにつ いて語彙やごみの種類の名前、わから ないことを聞く会話練習	山田 有香	〈補助者〉伊藤 祥、今井 啓、根本 たい子、松田 東司 〈保育〉川崎 清美、三輪 みよ子
29	令和元年12月8日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	14	家族の構成、簡単 な紹介をする	家族の呼び方、「家族は〇人です」、「子 どもは〇歳です」、「子どもは小学校に 行っています」など、家族の基本的な情 報を伝える語彙、表現の学習	大澤 彩	〈補助者〉岡田 千栄子、福田 明 弥、松田 東司 〈保育〉川崎 清美、山田 あつみ

30	令和元年12月15日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 3	14	家族の性格を伝え る	「性格のことば」「好きなこと」「嫌いなこ と」「上手なこと」など、人の内面的な情 報を伝える語彙、表現の学習	岩間 美奈	〈補助者〉伊藤 祥、久世 淳三、松 田 東司 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ 子
31	令和元年12月22日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	15	記念日、思い出な どを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える日 時・日付の表現や、「〈記念日〉に〈人〉に 〇〇をもらいました」「あげました」など 授受表現の学習	大澤 彩	〈補助者〉今井 啓、岡田 千栄子、 久世 淳三、福田 明弥、松本 唯 愛 〈保育〉日比 美登利、三輪 みよ子
32	令和2年1月5日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	6	29～31回(3期の5 ～7回)の復習と病 気について学ぶ	5～7回の内容を復習(家族の職業や性 格など、家族を紹介する表現)。病気に関 する体の部位や症状のことば、問診 票、医者診察を受ける際のことば	高木 みき	〈補助者〉伊藤 祥、久世 淳三、林 光子、松田 東司、松本 唯愛 〈保育〉川崎 清美、山田 あつみ
33	令和2年1月12日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	12	母国について伝え る①	位置、方角、人口など、自分の国の情 報を説明する語彙、表現の学習	大澤 彩	〈補助者〉根本 たい子、松田 東 司、松本 唯愛 〈保育〉日比 美登利、山田 あつ み
34	令和2年1月19日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	14	母国について伝え る②	自分の国の特徴について簡単に伝える ことができるよう「どんな国か」や「何が 有名か」の問いに答えられる学習	山田 有香	〈補助者〉今井 啓、岡田 千栄子、 根本 たい子、松田 東司、松本 唯愛 〈保育〉川崎 清美、三輪 みよ子
35	令和2年1月26日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	10	母国について伝え る③	自分の国の食文化について簡単に伝え ることができるよう「どんな料理が有名 か」や「何をよく食べるか」という問いに 答えられる学習	高木 みき	〈補助者〉根本 たい子、林 光子、 福田 明弥、松田 東司
36	令和2年2月2日(日) 9:30～11:30	2	大垣市スト トピアセン ター男女共 同参画活動 室	15	33～35回(3期の9 ～11回)の復習と 全体のまとめ	今まで習ったことを用いて自分のことを 言う練習、スーパーで物のある場所を 尋ねる練習、自国料理の説明や食事の マナーについて学習	山田 有香	〈補助者〉岡田 千栄子、西村 なる み、松田 東司 〈保育〉日比 美登利、山田 あつ み

【会話クラス】 実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年8月4日(日) 10:00～12:00	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 3	13	子育て・学校	日本の学校制度についてや学校に欠席 などの電話のかけ方、大垣での子ども の学習支援の情報提供	伊藤 かな	〈補助者〉福田 明弥、松井 文、松 田 東司 〈保育〉日比 美登利、山田 あつ み
2	令和元年8月11日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 3	17	病院	体の部位のことばや「痛い」「かゆい」な どの症状のことば、病院での診察の会 話の学習、問診票の書き方	伊藤 かな	〈補助者〉高田 ゆう子、松井 文
3	令和元年8月18日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スト トピアセン ター学習室4	18	災害①	「地震」「震度」など地震災害に関するこ とばや表現の学習、市の職員による防 災や地震の際にとるべき行動の指導、 避難所の確認	伊藤 かな な、 大垣市生活 安全課(災 害)職員	〈補助者〉大橋 節子、桐山 知弘、 林 光子、松井 文 〈保育〉川崎 清美、山田 あつみ
4	令和元年9月1日(日) 10:00～12:00	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 2	17	災害②	「大雨警報」「暴風」など気象災害に関す ることばや表現の学習、水害時の避難 所、非常持ち出し袋などの情報提供	伊藤 かな な、 大垣市生活 安全課(災 害)職員	〈補助者〉伊藤 祥、桐山 知弘、松 井 文
5	令和元年9月8日(日) 10:00～12:00	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 3	12	買い物	店の人に色違いやサイズ違いを尋ねる ことばや表現の学習、お店での買い物 ごっこのような実践練習(支援者と共に)	小寺 里香、 大垣市ク リーンセン ター職員	〈補助者〉高田 ゆう子、松井 文
6	令和元年9月15日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 3	9	ごみ出し	ごみの種類の言葉、ごみの分別活動を行 い、市の職員による指導、近所の人 にごみの出し方を尋ねる表現の学習	小寺 里香	〈補助者〉松井 文、松田 東司
7	令和元年9月22日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 3	12	道を聞く	目的地までの行き方を尋ねる表現と交 通ルールや交通標識の学習	宮本 正美	〈補助者〉伊藤 祥、松田 東司
8	令和元年10月6日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スト トピアセン ターかがや き活動室6- 2	7	電話をかける	電話の受け答えの表現を学習。会社を 休む、遅刻するなど複数の場面を想定 した会話練習	宮本 正美	〈補助者〉松井 文、松田 東司

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【■基礎クラス 第1回 令和元年5月12日】「テーマ:自己紹介」

①ひらがな学習

・ひらがな「あ行」、ネームプレートの作成と、自分の名前を書く練習

②「国の名前」「わたし」「住んでいる場所」「来日の理由」のことばと表現を、スライドを使い、絵や学習者の母語も使用して学習

③「国はどこですか」「どうして日本に来ましたか」の発話をグループで練習

④コミュニケーション練習

・ここまでで提示した文をつなげて、グループを超えて会話練習

⑤ふりかえり

・語彙の復習、「ふりかえりシート(学習した表現や文型を記入する)」の記入

・1回目であったが、グループを超えて練習の輪が広がった。ベトナム人の受講者が多い中、ベトナム人でJLPTのN2を目指して学習している人がアシスタントに入ってくれたので、日本語だけで理解できない人にはベトナム語も使って説明をしてスムーズにできた。



▲指導者とアシスタント(会話を例示)



▲日本人アシスタントとベトナム人アシスタントがペアでサポート

○取組事例②

【■基礎クラス 第28回 令和元年12月1日】「テーマ:1～3回の復習とごみ出し」

①ひらがな学習「た行」

②前3回分の学習の復習と発展学習

1.「休みの日は、よく〇〇しています」の復習

2. 曜日の復習をして、その後「ごみ出し」とリンクして「第1〇曜日」という言い方の練習や、そこから発展して、「燃えるごみ」「燃えないごみ」「ペットボトル」などのごみの種類の語彙の練習

3. 曜日やごみの種類の語彙を用いて、「燃えるごみは、朝8時までです」という表現の練習や相手に質問をする例文の確認

4. 大垣市のごみの収集パンフレットを用いて、実際にペアで聞いたり、答えたりする練習とそれを実際に書く練習

○取組事例③

【■会話クラス 第4回 令和元年9月1日】「テーマ:災害②(台風・大雨)」

・天気のことば、警報・注意報などのことばの意味確認

・悪天候や警報が出たとき、どういう行動をした方がよいか考える

・ハザードマップで、自分の地域の危険度を確認。大垣市の防災ガイドブックを使って市の職員や指導者、アシスタントと共に自分の住んでいる地域の避難所を確認(写真参照)。

・防災アプリなどの紹介

・避難所に何を持っていか、避難袋、水、懐中電灯など、実物を見て、各自自分の必要なものをそれぞれ考えた。非常食を紹介し、試食をした(写真参照)。



▲非常食の体験



▲避難所の場所の確認

■共通した特徴

視覚的な理解を促せるように、全ての授業はスライドを使って行った。



指導者とアシスタントが学習者の様子をみながらサポートし、発話の機会を多く持てるような活動を行った。



子育て世代が参加しやすいよう、託児室を設け、子どもも日本語に触れるよう、子ども向けの映像教材を見せる時間も取った。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・目標が達成できているかの検証のために、最終回の受講者に対してアンケートを実施した。詳細は別途提出のアンケートの通り。
- ・(基礎【4】、会話【3】)「この教室にきて、あなたの日本語は まえより 上手になったと思いますか？」の質問を基礎クラス、会話クラス、それぞれ実施した。両クラスとも、アンケートに回答した全員が、「上手になったと思う」または「まあまあ上手になったと思う」と回答している。教室に参加したことにより日本語の習得ができたと考ええる。
- ・(基礎【5】、会話【4】)「この教室にくるまえよりも、日本での生活ができるようになったと思いますか？」の質問も同様に、基礎クラス、会話クラス、それぞれ実施した。両クラスとも、ほぼ全員が、「できるようになったと思う」または「少しできるようになったと思う」と回答している。教室に参加したことにより、言葉や習慣、情報を得て生活がしやすくなり、目標にある「地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語を習得する」ことができる機会になったと考える。
- ・アンケートの自由記述から「日本人とよく話をしてコミュニケーション力がアップした」、「ひらがな、カタカナが書けるようになり、仕事場で役に立った」など、できるようになったことが増えたことが分かる。言葉の習得に加えて、地域の一員として生活しやすくなったことへの成果があったと考える。

(3) 今後の改善点について

- ・基礎クラスは、受講資格には明確な基準がないため日本語レベルの差が大きく、難しく感じて途中で学習をやめる人や、逆に簡単すぎると感じた学習者がいたようで、1期、2期は後半になると、休みがちになる人が多くいた。昨年の「せいかつのにほんごクラス」でも同様の傾向があり、今年度は申込段階で使用する教材を見せて学習内容を説明したところ、教室のレベルと受講者の日本語レベルに大きな開きが減り、受講者はおおむね理解でき楽しく学習ができたように感じた。基礎クラスにおいても、今後、申込段階で教室の内容を説明するなど改善が必要だと感じた。
- ・基礎クラスのうち、3期目はほぼ全員が最後まで継続していた。その理由の一つとして、受講者同士の関係がよく、教室に通うモチベーションを保っていたことが考えられる。受講者同士のよい関係性を作れるような教室活動の仕方の工夫を検討していきたい。
- ・基礎クラスのひらがなの文字の読み書きの時間は、既にひらがなの読み書きができる人もいた。その際、ひらがなと漢字を取り入れるなど、受講者のレベルに合わせた工夫をした指導者もいた。全体としてそのような対応ができる方法を検討し、改善していく必要もあると感じた。
- ・会話クラスでは、避難所の確認の場面など日常生活で使用しない言葉が多くある際には、内容を理解できていない学習者が複数いた。アシスタントが手伝ったが、アシスタント1人で数人を見るのが難しい場面など多々あった。アシスタントの人数を一律ではなく、テーマによって変えるなど工夫が必要である。

＜取組2＞										
取組の名称		日本語指導ボランティア講座「①入門編」、「②ブラッシュアップ編」								
取組の目標		・外国人市民も同じ地域に暮らす住民として寄り添った日本語学習の支援者となる人材を養成し、より多くの外国人が日本語の支援を得られる環境を作る。 ・現在活動している人が支援している中で持つ不安や疑問を解決し、より効果的に且つ継続した支援ができる体制を作る。 ・サポートに必要な知識の習得を行うとともに、地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す。								
取組の内容		・新たな人材の養成を目的とする入門編、活動者の不安解消やブラッシュアップを目的とするブラッシュアップ編の2コースを実施した。 ■①入門編(5回講座を2期実施) [対象] 日本語学習支援の未経験者向け [内容] ・日本語学習支援を継続する中で、日本語学習希望者に対して、支援できるボランティアが不足している状況が続いている。そのため、ボランティア人材の育成のため、サポートに必要な知識の習得ができる講座を実施した。 ・5回講座を計2期実施したが、曜日・時間帯を変えて、同じ内容で実施した。 ・次の3点の内容から、支援が必要な背景、そして支援者に必要な知識を理解してもらうことができ、新たな人材を養成し、より多くの外国人市民が日本語を学ぶ環境を作った。 1. 大垣市外国人の現状、大垣市の取組、日本語学習支援事業について 2. 支援者として必要な知識の講義(「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」に書かれている支援者として望まれる資質や能力について、支援のための準備、やさしい日本語など) 平成29年度の作成した教材を使用した教え方の実践 3. 日本語学習の現場の見学(教室、マンツーマンなど実際の取組を見学し、支援の形態を知る。日本語教師による日本語教室の見学では、指導の仕方や学習者に対する態度などを知る) [受講後の日本語教育との関わり] ・取組1の日本語教室でアシスタントとして活動 ・日本語教室終了後も継続して学習を希望する人を対象のマンツーマン方式日本語学習支援の支援ボランティアとして活動 ■②ブラッシュアップ編(4回講座を1期実施) [対象] 日本語学習支援に関わっている人 [内容] ・日本語指導ボランティアとして活動している人が、日頃の活動の不安や悩み、教え方の疑問点などを解消し、ブラッシュアップして、外国人がより効果的に日本語を習得できるようにするための講座として、次の内容で実施した。 1. 支援者として必要な知識の講義(支援者として望まれる態度や技能、やさしい日本語、コミュニケーション能力の高め方など) 2. 日本語の構造(文の構造や文法の知識、音声やアクセントについて) 3. コミュニケーションのための日本語 4. 支援者の発話調整、やさしい日本語について 5. 異文化体験ゲーム								
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		・背景などを理解し外国人に寄り添った日本語学習支援ができる人材を養成することで、外国人の日本語を学ぶ機会を増やし、日本語学習の環境を整えることができた。 ・講座を通して地域住民が多文化共生を意識することができ、日本語教育の重要性を発信していく市民を増やすことができた。								
取組による日本語能力の向上		特になし								
参加対象者		・日本語教育、多文化共生に関心のある市民 ・日本語教育に携わっている市民			参加者数 (内 外国人数)		62 人(0人) ・入門編47人(1期:31人、2期:16人) ・ブラッシュアップ編15人			
広報及び募集方法		・当協会ウェブサイト ・大垣市広報誌 ・大垣市メール配信サービス配信(登録制で対象者は約1,000人) ・チラシ配布(市内の主な施設、市内の大学、短期大学) ・ボランティア登録者への案内								
開催時間数		総時間 30時間(空白地域 0時間)			内訳 入門編:2時間 × 10回(5回×2期)=20時間 ブラッシュアップ編:2.5時間×4回=10時間					
主な連携・協働先		・大垣市役所 ・地域の日本語学校								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										62人
※該当する場合のみ										

【入門編】実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	〈1期〉 令和元年7月14日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	29	在住外国人の状 況、多文化共生に ついて、日本語教 室の見学	・外国人の状況、市の多文化共生の取 組紹介 ・日本語学習支援の各種取組を見学 (役割や外国人との接し方などを見学)	桐山 知弘	なし
2	令和元年7月21日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	23	日本語学習支援者 とは？	・日本語学習支援者に望まれる資質・能 力 ・日本語の特徴(文法、文字など)	柏谷 涼介	なし
3	令和元年8月4日(日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	24	日本語学習支援者 とは？	・前回の続き ・やさしい日本語について	柏谷 涼介	なし
4	令和元年8月25日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	26	コミュニケーション の日本語とは？	・語彙や文法を説明する方法について ・生活で使える日本語を習得するために can-do(何ができるか)の考えを紹介 ・どのように支援するとよいのか考えた	柏谷 涼介	なし
5	令和元年9月8日(日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	23	日本語支援の実践 をしてみよう	・教え方のモデル例の提示(平成29年 度に作成した日本語教材を使用して) ・モデル例を使用しての実践	柏谷 涼介	なし
6	〈2期〉 令和元年11月10日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	11	在住外国人の状 況、多文化共生に ついて、日本語教 室の見学	・外国人の状況、市の多文化共生の取 組紹介 ・日本語学習支援の各種取組を見学 (役割や外国人との接し方などを見学)	桐山 知弘	なし
7	令和元年11月22日 (金) 18:30～20:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	13	日本語学習支援者 とは？	・日本語学習支援者に望まれる資質・能 力 ・日本語の特徴(文法、文字など)	柏谷 涼介	なし
8	令和元年11月29日 (金) 18:30～20:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	11	日本語学習支援者 とは？	・前回の続き ・やさしい日本語について	柏谷 涼介	なし
9	令和元年12月6日 (金) 18:30～20:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	10	コミュニケーション の日本語とは？	・語彙や文法を説明する方法について ・生活で使える日本語を習得するために can-do(何ができるか)の考えを紹介 ・どのように支援するとよいのか考えた	柏谷 涼介	なし
10	令和元年12月13日 (金) 18:30～20:30	2	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	11	日本語支援の実践 をしてみよう	・教え方のモデル例の提示(平成29年 度に作成した日本語教材を使用して) ・モデル例を使用しての実践	柏谷 涼介	なし
【ブラッシュアップ編】実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年1月12日(日) 14:00～16:30	2.5	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	14	日本語支援者に求 められていること、 日本語文の構造	・「文化審議会国語分科会」の資料に基 づき、日本語支援者に求められる資質・ 能力について ・日本語文の構造(文法)	柏谷 涼介	なし
2	令和2年1月19日(日) 14:00～16:30	2.5	大垣市スイ トピアセン ターかがや き活動室6- 3	12	日本語文の構造	・日本語文の構造(文法、音声)	柏谷 涼介	なし
3	令和2年1月26日(日) 14:00～16:30	2.5	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	12	コミュニケーション の日本語とは？	・コミュニケーションのために必要なこと ・発話調整	柏谷 涼介	なし
4	令和2年2月2日(日) 14:00～16:30	2.5	大垣市スイ トピアセン ター学習室 3-5	9	異文化とは？	・異文化理解 ・異文化体験ゲーム	柏谷 涼介	なし

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和元年7月14日】入門編、1期の1回目

(1)多文化共生についての講義(講師:大垣市まちづくり推進課(多文化共生係)職員)

- ・大垣市に在住する外国人の人口、国籍、在留資格等のデータから、外国人の現状を紹介した。
- ・大垣市が実施した多文化共生に関するアンケート(外国人と日本人を対象)結果から市民の意識、また外国人が困っていること、日本語の理解度などを紹介し、参加者と共に、外国人市民との共生、そして日本語学習支援について考えた。
- ・多文化共生に関する大垣市の取組、日本語学習支援事業の具体的な取組を紹介し、多文化共生や日本語学習支援に関する理解を深めた。

(2)日本語教室等の見学(担当:当協会職員)

- ・取組1の「日本語教室」や自主財源で実施している「マンツーマン方式の日本語学習支援」の取組を見学(部分的に参加)した。
- ・実際に日本語を学んでいる様子やこの講座を経て実際に活動してもらう日本語教室で活動する指導者アシスタント(グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェック、講師と共に会話モデルを示す役割を担う)の様子を見学した。
- ・活動の見学には主に3つの目的を持ち実施した。
 - 1.日本語教室のアシスタントの役割や活動の様子を見てもらい、活動に繋がる人材を育成すること
 - 2.当協会で実施している日本語の全取組の中から、受講者が関わることのできる取組を見つけてもらい、支援の輪を広げること
 - 3.指導者やアシスタントが「外国人とのコミュニケーション」をどのように工夫して接しているのかなど、今後、外国人と接したり支援したりする場合の参考にしてもらうこと



▲大垣市職員による講義



▲日本語教室見学とアシスタント活動体験

○取組事例②

【第5回 令和元年9月8日】入門編、1期の5日目

活動内容:平成29年度に作成した教材を使った教え方を実践(講師:セントラル日本語学校主任教員)

- ・平成29年度に作成した日本語学習教材「やさしい せいかつのにほんご～はなしましよう～」を使った学習方法の一例を示した。
- ・その例を用いて、実際に教える体験をした。受講者が3～5人のグループになり、支援者役、学習者役、観察する役に分かれて実施した。観察して感想を伝えてもらうことで、客観的になり、実際に外国人に指導する際のヒントを持ってもらえるようにした。



▲講師による講義



▲実際に教材を使った実践練習

(2) 目標の達成状況・成果

- ・目標が達成できているかの検証のために、最終回の受講者に対してアンケートを実施した。詳細は、別途提出のアンケートの通り。
- ・(入門【5】、ブラッシュアップ【4】)「このプログラムを受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか」の質問を両コースで実施した。アンケートに回答した全員が「深まったと思う」または「まあまあ深まったと思う」と答えた。受講により「生活者としての外国人」に対する理解が深まり、日本語学習支援の必要性を全員が感じたことから、目標にある「地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す」一定の成果を上げることができたと考えられる。
- ・入門編では、一般市民(ボランティア未登録者)が合計36人受講し、うち10人が講座受講後ボランティアに登録した(1期は24人中8人、2期は12人中2人)。この10人は全員、教室アシスタント又は、マンツーマン方式の日本語学習支援ボランティアとして活動している。講座を通して外国人が日本語を習得する必要性を感じ、日本語支援に関わる結果につながった。

(3) 今後の改善点について

- ・入門編受講者で、ボランティアをしていない人のうち、約9割の人が日本語支援に「関わってみたい」または「できれば関わってみたい」と答えた(アンケート【6】参照)。一方、実際の活動につながった人が約3割と開きがあった。活動につながらない理由を把握し、活動のあり方を含め検討していく。
- ・活動につながらない理由の一つとして、受講後すぐに活動することへの不安感が考えられる。実際に活動している人が活動の話をすると不安軽減になると思うので、そのような内容を入れていくことも含めて、講座の内容を検討していく。
- ・アンケートから「実際の支援活動をどうするのか、実践練習がもっとあるとよい」、という意見が複数あった。実践をしてみることで、活動へ意欲や不安解消につながると思われるので、講座の内容を講師と精査していく。

＜取組3＞										
取組の名称		地域日本語教育シンポジウムin大垣								
取組の目標		・本事業の取組の成果報告を行い、外国人市民の地域参加の重要性を伝える。 ・地域住民に対して、多文化共生のための地域づくりについての理解を促す。								
取組の内容		大垣地域の外国人の現状や当協会で実施している日本語学習支援の取組を広く知ってもらうことと、地域の日本語教室を取り巻く環境が変わりつつある中で、地域日本語教育はどこまで担っていきべきかを考えること、そして支援者をはじめ市民が外国人市民の受入と共生に対する理解促進につながるためのシンポジウムを開催した。 【講演会】(30分) ・文化庁の日本語教育施策と国内の日本語教育の動向について、文化庁国語課日本語教育専門職、北村祐人氏による講演。 【当事業の成果報告(学習者のスピーチ発表と取組の紹介)】(25分) ・取組1の日本語教室受講者計4人のスピーチ発表(教室の感想や将来の夢など)を行った。 ・取組1と2を含む日本語学習支援事業の現状の紹介と課題提起をした。 【パネルディスカッション】(70分) ・上記の大垣での課題を元に、パネルディスカッションを行った。 ・取組1と2で実際に関わっている指導者・講師、外国にルーツを持つ人、東海地域で幅広く日本語教育に携わっている人と、異なる立場の人をパネリストに招き、課題解決の提案をしてもらった。 ・パネリスト: 柏谷涼介氏(セントラルジャパン日本語学校 主任教員) - 伊藤かな氏(岐阜協立大学 非常勤講師) - 米勢治子氏(東海日本語ネットワーク 副代表) - 大里誠治氏(美濃加茂市地域振興課多文化共生係 国際交流員) - 北村祐人氏(文化庁国語課)急遽参加 【交流会】(30分) ・参加者同士、参加者と登壇者が交流し、意見交換や質疑をした。								
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		・参加者が日本語教育の重要性などを講演会などから理解することで、その後の日本語支援への理解を得ることができた。 ・外国人の社会参加のためには、地域全体で外国人の日本語能力の向上や共生への意識啓発をすることができた。 それにより、地域全体での連携体制の構築に向けた第一歩を進めることができた。								
取組による日本語能力の向上		・日本語スピーチ者が、スピーチ発表の準備を通して日本語の原稿を書くために学び練習し、日本語を話すことへの自信をつけることができた。								
参加対象者		・日本語学習支援者 ・一般市民、多文化共生に興味のある人 ・外国人市民 ・学校関係者など				参加者数 (内 外国人数)		85人(4人)		
広報及び募集方法		・当協会ウェブサイト ・大垣市広報誌、大垣市メール配信サービス ・チラシ配布(配布先:大垣市内の市役所、図書館ほか市内の公共施設、市内大学、西濃地域の地方自治体の多文化共生担当、岐阜県内の国際交流協会や日本語教室) ・ボランティア登録者及び賛助会員への案内送付								
開催時間数		総時間 3時間(空白地域 0時間)		内訳 3時間 × 1回						
主な連携・協働先		・大垣市 ・地域の大学 ・市民団体など								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			3人	1人						81人
※該当する場合のみ										

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年2月9日(日) 13:00～16:00	3	大垣市ス トピアセ ンター ス イピアホ ール	85	地域日本語教育について考える	[講演] ・文化庁の日本語教育の施策説明 [スピーチ発表と取組の紹介] ・取組1の日本語教室受講者による日本語スピーチ発表 ・大垣での取組の状況説明とその中で抱える課題提起 [パネルディスカッション] ・大垣地域での地域日本語教育の課題提起に対するディスカッション [交流会] ・参加者同士、またパネルディスカッションの登壇者らと意見交換		[講演] 北村 祐人 [スピーチ発表と取組の紹介] クラマエ エイゾウ イサツグ マルクス ピニシウス フェルナンデス ランザ エリキ ファン ホン フォン 吉安 三恵 [パネルディスカッション] 柏谷 涼介 伊藤 かなな 米勢 治子 大里 誠治 北村 祐人

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和2年2月9日】

【文化庁職員による国内の日本語教育の動向についての講義】

・昨年出された「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」に関して、体制の整備、日本語能力のレベルを判定する基準の作成、人材の確保など最近の文化庁の動きを説明した。
 ・現在作成中の、ICT教材の動画を紹介した。

【日本語学習者のスピーチ発表と日本語学習支援の取組の紹介】

・日本語教室を受講したブラジル人3人とベトナム人1人が、教室の感想や将来の夢などを日本語でスピーチした。
 ・取組1、2及び自主財源で実施しているマンツーマン方式の日本語学習支援など、現在までの大垣の取組の紹介と活動の中で抱えている課題を提起した。

【パネルディスカッション】

・大垣での課題に対しての解決案の提案や他の地域や国の動きなどを含めて、5人のパネリストがディスカッションした。
 ・まとめとして、30年たっても地域日本語教育の現状は変わらず、ボランティア頼りのまま。国は外国人の受入へと大きく舵をきり、その中で日本語教育は要であり、地域で担っていくしかない。自治体がやっていかなければいけないが、市民としても大垣をどのようにしていきたいのかを考えて、要望を出していくことが求められている。

【交流会】

・ボランティア活動者や一般市民、そしてパネリストの方々が、小グループに分かれて、感想を述べたり、意見交換をしたりした。



▲講演の様子



▲学習者の日本語スピーチ発表



▲パネルディスカッション



▲交流会

(2) 目標の達成状況・成果

・アンケート結果から、当事業の取組や国の地域日本語教育に対する施策への理解度は高く、外国人の日本語学習についての重要性や当地域における課題の理解を促すことができた。活動している支援者も、目の前の学習者のことは分かっているが、全体のことを知らない人が多くいるようだが、そういった人も含めて、現状を知ってもらう大変よい機会になった。
 ・外国人を受け入れる中で日本語教育は要の部分で、国・県・市町村という行政や受入企業の取り組みが重要であるが、市民を巻き込んだ地域全体でも真剣に考え取り組まないとその地域の将来に影響する問題だという意見が、パネルディスカッションであった。その意見に対する、同感の声も多々あったことから、多文化共生のための地域づくりについての理解を深めることができたと思う。

(3) 今後の改善点について

・大きく4つの内容を入れたため、それぞれ十分な時間がとれなかった。特にパネルディスカッションにおいては、もっと時間があれば深く掘り下げることもできたように感じる。内容とそれに対する時間配分などを検討していく。
 ・今回のパネルディスカッションでは、登壇者を日本語教育関係者に絞ったが、行政や外国人が働く企業の人など、幅広い人に登壇してもらうことで、多様な意見や現状を伝えることができると思われるので、次回開催の際にはテーマや登壇者も検討していく。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

言葉や生活習慣、文化の違いなどから日本人と外国人の間で生じるトラブルや、言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設け、地域の人と積極的にコミュニケーションが取れる下地をはぐむ。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人に寄り添い、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させることに加えて、日本語教育の取組の成果を広く地域住民に発信することで、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・受講者アンケートからわかるように、日本語教室の実施により、学習前と比較し外国人の日本語能力が向上し、日本人とのコミュニケーションや仕事に役立ったことが分かる。地域生活に必要な地域の人と積極的にコミュニケーションを図るための言葉習得ができたと考える。
・生活場面をテーマにした日本語とそれに関する情報を学ぶ日本語教室では、生活する上では言葉だけでなく様々な情報が必要であり、受講者の満足度からも取組内容には一定の効果があつたと考える。
・日本語指導ボランティア講座の実施により、受講後にボランティアとしての活動に繋がっていない人も含め、市民に地域の外国人の状況を知ってもらうことができた。
・シンポジウムによって、大垣での地域日本語教育の課題やその課題を踏まえてこれから取り組んでいくべきことを、ボランティアなど関わる人々と共有できた。また、今まで関わりのない人も多く参加いただけたので、まず発信という一つの目的を達成できた。
・まだ十分でないところもあるが、日本人と外国人が共に寄り添える基盤を作ることができたと考える。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

①行政機関との連携
・市の職員(災害担当、ごみの担当)が日本語指導者と共に教室活動(ごみの分別や避難所の確認など)の一部を行い、情報提供をした。直接外国人学習者に接することで、行政からの情報提供の大切さを感じてもらうことができた。
②日本語教育機関(市内の大学、地域の日本語学校)
・地域の日本語学校及び大学で日本語を教える日本語教師が日本語教室の指導者をした。
③運営委員会
・日頃から生活者としての外国人に関わる取組を行っている団体関係者(大垣市職員、日本語教育機関(市内の大学、地域の日本語学校)、公立学校の日本語教室講師、在住外国人による団体、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員)に運営委員会のメンバーに入ってもらい、各機関とのネットワークを形成し、外国人との共生に関する課題を共有し、各取組の人材や情報の活用において連携・協力できた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

参加者募集にあたっては、次のように周知・広報した。
【日本語教室】
・当協会ウェブサイト
・Facebook発信(やさしい日本語、ポルトガル語、英語)
・チラシ配布(日本語・ポルトガル語・中国語・英語版)(配布先:市役所、外国人学校、外国人児童・生徒放課後学習支援教室)
【日本語指導ボランティア講座】
・当協会ウェブサイト
・大垣市広報紙
・大垣市メール配信サービス(登録制で対象者は約1,000人)
・チラシ配布(配布先:市役所、図書館ほか市内の公共施設、市内大学、短期大学)ボランティア登録者への案内送付
【地域日本語教育シンポジウムin大垣】
・当協会ウェブサイト
・大垣市広報紙
・大垣市メール配信サービス(登録制で対象者は約1,000人)
・チラシ配布(配布先:市役所、図書館ほか市内の公共施設、市内大学、周辺市町自治体の多文化共生担当課、岐阜県内の国際交流協会や日本語教室)
・ボランティア登録者及び賛助会員への案内送付

(5) 改善点、今後の課題について

①日本語教室の活動・運営について
・国籍や日本語レベルが様々でも、回を重ねるごとに学習者同士の交流ができていた。学習者間の交流を促し、学習者が教室に参加したい、また教室が居場所になるよう、教室運営に活かしていく。
・日本語学習を希望する人が大変多くいる。取組1で実施した教室形式(2コース)と自主財源で実施しているマンツーマン方式など、複数の取組を実施しているが、それぞれの取組間の連携がうまくできていないと感じている。連携を図ることで、日本語学習希望者の待機解消にも繋がると感じるので、連携方法を検討していく。
②人材の育成・研修の実施について
・学習希望者に対して、指導・支援の人材が不足している。今後も在住外国人が増えることが想定されるため、新しい人材の育成に加えて、既に支援者となっている人のステップアップを含めた、人材育成研修の内容を文化審議会の報告書などを踏まえて検討していく。
③日本語教育事業の実施体制、全体の取組について
・日本語教室の実施プログラムやカリキュラム作成など、日本語教育のコーディネートすべき業務は多岐にわたるため、今後より一層の連携を図っていく。
・地域全体の日本語学習希望者に対して、現在の取組では不十分である。日本語教室を中心に新たな方法を開発し、体制の整備が必要である。
・日本語支援が必要な外国人に情報を伝達できるように各関係機関との連携の見直しをしていながら、互いに顔の見える関係づくりに向け、連携方法を含め検討していく。

(6) その他参考資料

○チラシ

・日本語教室「基礎クラス(1～3期)」「会話クラス」(それぞれ日本語、ポルトガル語、中国語、英語)
・日本語指導ボランティア講座「入門編(1・2期)」「ブラッシュアップ編」
・地域日本語教育シンポジウムin大垣

○受講者アンケート

・日本語教室「基礎クラス(1～3期)」「会話クラス」
・日本語指導ボランティア講座「入門編(1・2期)」「ブラッシュアップ編」
・地域日本語教育シンポジウムin大垣